



令和8年度 学校経営シラバス

学校教育目標

- 1 自己を^{ひら}く
- 2 知を^{ひら}く
- 3 未来を^{ひら}く

スローガン 「自分を、ひらけ。」

1 スクール・ミッション

- ・向学心や探究心を身に付け、自己の進路決定に向けて意欲的に学習に取り組む生徒の育成
- ・柔軟に対応する創造性を有し、主体的に課題解決に活用することができる生徒の育成
- ・進学校としての伝統を維持し、国公立大学をはじめとする大学等への進学を可能にする生徒の育成
- ・進学先や就職先でも主体的に活動し活躍できる力、「育成を目指す9つの資質・能力」を身に付け、卒業後もリーダーシップを発揮し活躍できる生徒の育成

2 育成を目指す資質・能力

学校教育目標が示す3段階の成長と具体の「めざす姿（姿勢）」を実現する「9つの資質・能力」を育む。

- 1 自己を開く 他者の考えにふれ、自己を成長させようとする姿勢
 - ・傾聴力（相手の意見を丁寧に聴く力）
 - ・発信力（自分の意見をわかりやすく伝える力）
 - ・協働力（相互にお互いの不足を補い合い、ともに協力する力）
- 2 知を啓く 先人の知に学び、視野を広げようとする姿勢
 - ・課題発見力（現状を分析し目的や課題を明らかにする力）
 - ・計画力（課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力）
 - ・実行力（目的を設定し確実に行動する力）
- 3 未来を拓く 新時代の担い手としての使命を探り、社会に貢献しようとする姿勢
 - ・主体性（物事に進んで取り組む力）
 - ・社会性（考えや行動を周囲に受け入れられるように表現する力）
 - ・創造性（新しい価値を生み出す力）

3 教育課程の編成及び実施に関する方針

- 1 学校教育目標を実現する「自分を、ひらけ。プロジェクト」の改善・充実を図る。
- 2 生徒の「育成を目指す9つの資質・能力」を把握する仕組みにより、CAP-Doによるマネジメント・サイクルを確立する。
- 3 「3ステージ制」による基礎学力の定着と、生徒一人一人の能力・適性、興味・関心、進路希望に応じた教育課程を編成・実施する。
- 4 （仮）北陵ハイスクール構想検討委員会により、令和9年度末告示予定の新学習指導要領に係る情報収集及び令和9年度入学生からの中学卒業生数減少に対応する教育課程編成を進める。
- 5 1～4について、教職員の見識を深めるため、計画的な研修を実施する。

4 経営方針

- 1 学習指導 社会の変化に即し個々の生徒の特性に応じた教育課程を編成し実施する。
- 2 生徒指導 自身を含む生命の尊厳と多様性を尊重する心を醸成するとともに、自己の可能性を高める9つの資質・能力を育成する。
- 3 いじめ対応 「いじめをしない」「いじめをさせない」「いじめを許さない」集団づくりをする。
- 4 進路指導 生徒一人一人に目を向けたキャリア教育ときめ細かな進路指導の充実を図る。
- 5 健康・安全指導 心身の健康増進及び美化意識と安全意識を醸成する。
- 6 学校運営 CAP-Doによるマネジメント・サイクルを確立するとともに、心理的安全性を担保する職場環境を構築する。
- 7 働き方改革 効果的で質の高い教育活動を実現する働き方改革を実践する。

5 年度の重点目標

○生徒の一人一人の特性に応じて「指し示して導く」

- ・指し示す項目（学ぶことや守ることの、価値・目標・やるべきこと・手順）
- ・導き方（誉めて、やる気を引き出す・自信を持たせる・信頼を得る）

○社会に開かれた教育課程の実践

6 指導上の重点事項と評価の観点

	重点事項	評価の観点
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ① 共通性を確保するとともに、多様性に対応した生徒への学習支援の確立と実現するための環境整備 ② 教育DXによる主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善及び観点別学習評価による指導と評価の一体化 ③ 地域や同窓生の教育力を活用した知的好奇心の喚起と学ぶ力の育成 ④ 教育活動全体を通して9つの資質・能力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ① 生徒個々のデータや生徒とのやり取りを通して、一人一人の状況を把握し、学習の指導や支援をすることができたか。 ② 効果的な教育活動を実践する授業改善を図るとともに、観点別学習評価による指導と評価の一体化を図ることができたか。 ③ 地域や同窓生の教育力を生かした学びの場を提供するとともに、生徒の興味関心を引き出すことができたか。 ④ 教育活動全体を通して9つの資質・能力を育むことができたか。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ① 望ましい生活習慣の確立 ② 生徒の自主自律を伸張する生徒会・部活動・ボランティア活動の充実 ③ 外部機関との連携を重視した社会性を身に付ける指導の充実 ④ 持続可能な社会の形成者を育成するための組織的・継続的な取組 	<ul style="list-style-type: none"> ① 生徒に高校生活の意義を認識させ、生徒自ら律し陶冶する場を設け、教職員全体で連携し指導することができたか。 ② 生徒の自主自律を伸張する課外活動の改善・充実を図ることができたか。 ③ 課外活動において、社会性を身に付けることを目的とした外部機関等と連携した取組ができたか。 ④ ③において、持続可能な社会の形成者を育成に係る取組を行うことができたか。
いじめ対応	<ul style="list-style-type: none"> ① 積極的ないじめの認知による早期発見と未然防止 ② いじめ防止対策委員会を中心とした組織的かつ迅速な対応 ③ ①②を実現するための体制づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ① 積極的ないじめの認知による早期発見と未然防止ができたか。 ② いじめ防止対策委員会を中心とした組織的かつ迅速な対応ができたか。 ③ ①②を実現するための体制づくりに向け、いじめ対応の改善・充実を図ることができたか。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ① 生徒一人一人の現状を把握し、共通性と多様性に対応した進路実現に導く、資質・能力を高めるきめ細かな指導の充実 ② 社会の変化に順応できる自己調整能力を育む組織的・系統的な指導の充実 ③ 大学、社会教育機関等、外部機関、地元企業等と連携したキャリアプランニング能力を高める指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ① 生徒一人一人の特性や個性を踏まえた、進路実現に向けた計画立案や入試戦略を立てさせることができたか。 ② 生徒の自己調整能力を育み、生徒自ら進路実現のため学習に向かう指導ができたか。 ③ 【ア】外部機関と連携した進路指導を実施し、生徒のキャリアプランニング能力を高める指導ができたか。【イ】みらいの教員育成プログラムに係る関係機関との連携について改善がみられたか。
健康・安全指導	<ul style="list-style-type: none"> ① 生徒が安心できる心地よい居場所の提供と生徒の多様性に対応した教育相談の充実 ② 望ましい生活習慣の確立を目指す健康・相談活動の充実 ③ 想定を超えた危機に対して生徒一人一人が判断し、行動できる能力の育成 ④ 危機管理マニュアルの適切な活用と危機管理体制の確立 ⑤ 日常的な校地内環境の保全・整備と美化活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校施設の新たな活用の企画やそれに向けた実践ができたか。自他の生命を尊重し多様性社会をつくる視点を育む取組を実施することができたか。 ② 生徒の欠席状況や学校での様子等について適切に把握し、課題が見られる生徒についてはSCと連携し、教育活動支援委員会等により、教員間で情報を共有し共通理解のもと対応できたか。 ③ 防犯・防災・交通安全に関する取組を通して、日常の様々な危険について生徒自ら判断し、身を守る能力を高めることができたか。 ④ 危機管理マニュアルの内容を確認するとともに、平時におけるコミュニケーションを通して危機管理体制の確立を意識したか。 ⑤ 生徒への指導だけでなく、教職員による机上整理等、日常の環境整備を行ったか。
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校運営上の課題解決に向けた全教職員による点検・情報収集 ② 共通理解を踏まえた意図的・計画的な組織力による教育活動 ③ ①②を実現するための体制づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ① CAP-Doによるマネジメント・サイクルを実践するため、自身が関わる業務に関し点検・情報収集に取り組み、業務改善することができたか。 ② グループ及びユニットの方針に基づく学年相互の連携と、各学年のねらいを踏まえた学年経営の両輪による組織力を活かした教育活動を実践できたか。 ③ ①②を実現するための体制づくりに向け、学校運営の改善・充実を図ることができたか。
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ① 校務の効率化と役割分担の促進 ② 部活動指導に関わる負担の軽減 ③ ワークライフバランスを意識した働き方の推進 ④ ①～③を実現するための体制づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ① ICTを活用した校務の効率化を図るとともに、保護者や地域に対し、学校の実情について情報発信できたか。 ② 部活動休養日等の実施や複数顧問制の活用により、負担を軽減することができたか。 ③ ワークライフバランス（仕事と生活の調和）の視点を持った働き方を実践することができたか。 ④ ①～③を実現するための体制づくりに向け、働き方改革の改善・充実に努めることができたか。